

新型コロナは夏にも流行？／今年も熱中症に注意

新型コロナウィルスは夏になって例年のように徐々に増加してきました。軽症で受診されていない方も多く、実際にはもう少し患者が発生しているようです。

6月9日までの1週間で定点あたりの患者数は全国で3.99人で、大阪府は2.38人と全国以下です。都道府県別の最多は沖縄の19.58人で、鹿児島8.73人、北海道6.67と続き、過去に見られたような観光地の多い所で流行が始まっていると考えます。

さらに乳幼児に多い夏型感染症が流行しています。大阪では手足口病が急増し警報レベルになっています。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎も多い状況が長く続いています。さらに1歳児に多く、発熱と口の中の粘膜にみられる水疱性の発疹を特徴とするヘルパンギーナも急増してきました。十分注意してください。

熱中症に注意～6月後半から猛暑～

暑い夏がやってきました。梅雨入りは遅れていますが、気温は6月後半から全国的に高くなっており、しばらくは続く見込みです。十分な熱中症対策が必要です。

暑さの感じ方は人によって異なります。さらにその日の体調や暑さに対する慣れなどが影響しますので、体調の変化(特に感冒や下痢)に気をつけましょう。熱中症患者のおよ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対するからだの調整機能も低下しているため、注意が必要です。

室内でも熱中症が発生しています。暑さを感じなくても室温や外気温を測定し、扇風機やエアコンを使って温度調整するよう心がけましょう。室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じていなくてもこまめに水分・塩分などを補給しましょう。持病(特に糖尿病や高血圧、腎障害等)のあるかたは主治医にもよく相談してください。一部の薬は脱水になりやすくなります。また、マスクを着用していると体に熱がこもりやすくなる一方、のどの渇きを感じにくくなるので熱中症のリスクは上がります。

熱中症の初期症状はめまいや立ちくらみ、筋肉のこむら返りや手足のしびれなど様々です。熱中症が疑われるときは、まずは日陰やクーラーの効いている屋内など涼しい場所に移動します。服をゆるめて熱を発散しやすくし、冷たい飲み物で水分補給します。汗をかいて体内のナトリウムが失われている場合は、水やお茶ではなく100mlあたり0.1～0.2%の食塩を含んでいる飲料や経口補水液を摂取することで、効率よく水分補給ができます。

2024年6月21日 産業医 井戸 正利

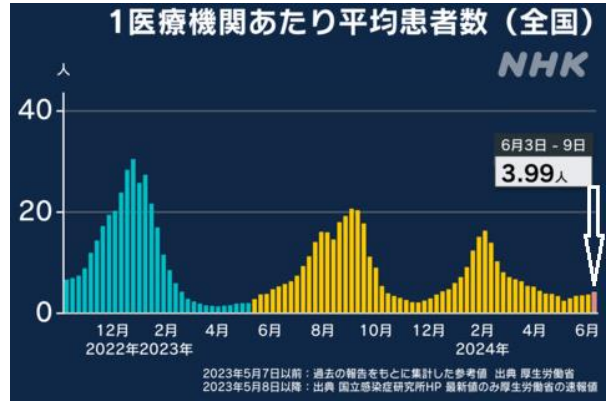
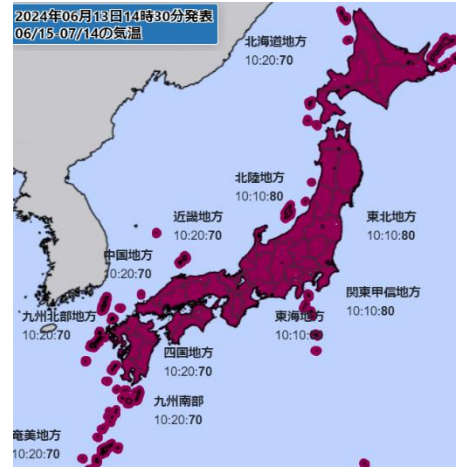


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2024年 第23週6月3日～6月9日)

第23週の順位	第22週の順位	感染症	2024年第23週の定点あたり報告数	前週比増減	2023年第23週の定点あたり報告数	2024年第23週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	7.33	20%増	0.47	1歳_32%
2	2	感染性胃腸炎	5.57	2%減	4.74	1歳_13%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.45	9%増	2.72	5歳, 6歳_12%
4	6	ヘルパンギーナ	1.05	25%増	4.66	1歳_26%
5	5	咽頭結膜熱	0.84	2%減	0.89	1歳_40%



軽症	中程度	重症
<p>症状(サイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目まい・立ちくらみ 汗が止まらない こむら返り 手足のしびれ <p>対処</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷やした水分・塩分の補給 涼しい場所へ移動(室内の場合はエアコンなどで室温を下げる) 安静 0.1～0.2%の食塩を含んだ飲み物が最適 	<p>症状(サイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 頭痛 集中力や判断力の低下 吐き気 体がだるい(倦怠感) <p>対処</p> <ul style="list-style-type: none"> 涼しい場所へ移動 十分な水分・塩分の補給 衣服を緩め体を冷やす 安静 自分で水分を摂取できない場合は、医療機関を受診 	<p>症状(サイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼び掛けへの返事がおかしい 意識がない 体が熱い きれいな汗 普段通りに歩けない <p>対処 119</p> <p>ただちに救急車を呼ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急車を待つ間 涼しい場所へ移動 衣服を緩め体を冷やす 安静 無理に水を飲ませない

